

スマホではじめる未来づくり

auスマート・プライム(高成長)

追加型投信/内外/資産複合

[設定日: 2018年9月19日]

PRIME

臨時レポート 2020年3月16日

2020年3月16日の基準価額の下落について

auスマート・プライム(高成長)の2020年3月16日時点の基準価額が、前日比で5%以上下がりました。受益者の皆様におかれましてはご心配をおかけしておりますが、以下のとおり状況をご報告させていただきます。

基準価額の下落について

日付	基準価額	前日比	騰落率
3月16日	8,703 円	-466 円	-5.08%

下落の要因と市況概況

■当日基準価額の下落の要因分解

資産クラス	ファンド名	①騰落率	②組入比率	①×②
国内株式	ジャパン・Dファンダメンタル・バリュー	-5.24%	14.0%	-0.73%
	日本グロース株ファンド	-4.84%	14.1%	-0.68%
国内債券*	キャリーエンハンスト・グローバル債券ファンド	-1.14%	20.8%	-0.24%
海外株式	インターナショナル株式ファンド	-9.23%	35.3%	-3.25%
海外債券	外国債券インデックスファンド	-0.95%	10.3%	-0.10%
	新興国債券インデックスファンド	-3.07%	4.8%	-0.15%
その他要因		—	—	+0.07%
合計		—	—	-5.08%

※ファンド名は(FOFs用)(適格機関投資家専用)を省略しています。

*国内債券はヘッジ付外債を含みます(ヘッジ付外債の詳細は次頁参照)。

■市況概況等

1月下旬以降、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各国の感染拡大防止策の広がりにより、企業収益の圧迫や全世界規模の景気悪化が懸念され、ここもとの株式市場は大きく荒れております。こうした状況下、3月12日には米国が欧州からの入国を30日間停止すると発表したことを受け、米国を中心に海外株式市場は大きく下落し、ニューヨークダウの下落は終値ベースで9.99%に達しました。翌13日には日本株も大きく下落し、日経平均は終値ベースで6.08%の下落となりました。債券市場においても、価格が下落に転じたため、組入れている全ファンドの評価額が下落し、当ファンドの基準価額は5.08%の下落となりました。

◆資料末尾の『当資料のご利用にあたっての注意事項等』を必ずご覧ください。

ファンドの目的と特色

- ①投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の債券、株式等*に投資を行い、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。
*不動産投資信託証券（リート）を含む場合があります。
- ②各資産の投資比率が異なる、「成長」「高成長」の2つのファンドをご用意しています。

運用の特色

- 実質的に日本を含む世界の債券、株式に分散して投資を行うことによりリスクの低減をめざします。
- 投資対象ファンドの選定については、運用体制や運用哲学などの評価（定性評価）に加えて運用実績にかかる評価（定量評価）等を勘案して決定します。
- 投資対象ファンドは適宜見直しを行い、組入ファンドの入替を行う場合があります。
- 投資を行う資産クラスと配分比率は以下のとおりです。ただし、組入れファンドおよび信託財産全体のリスク特性やパフォーマンス等を継続的にモニターし、各資産クラスについて上下10%の範囲内で配分比率を調整します。

資産クラス	株式	国内株式	30%
		海外株式（新興国株式含む）	35%
債券	債券	国内債券（ヘッジ付外債含む）	20%
		海外債券（新興国債券含む）	15%
合計			100%

※国内債券はヘッジ付外債（外貨建債券に投資し、為替ヘッジを行うことにより実質的に円建ての運用成果をめざすもの）を含みます。

※上記は有価証券届出書提出日現在の投資を行う資産クラスと配分比率のイメージであり、実際の配分比率とは異なります。

投資リスク（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

- ①価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、リートの価格変動）
- ②為替変動リスク
- ③カントリー・リスク
- ④その他（解約申込みに伴うリスク等）

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスク等があります。

※為替ヘッジを行う場合でも、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。また、金利差相当分程度の為替ヘッジコストが生じる場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

◆資料末尾の『当資料のご利用にあたっての注意事項等』を必ずご覧ください。

2020年3月16日

ファンドの費用 (詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

投資者が直接的に負担する費用

	料率等	費用の内容
購入時手数料	2.2% (税抜2.0%) を上限として販売会社が別に定める率	購入時の商品説明ならびに事務手続き等にかかる費用の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率0.902% (税抜0.82%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象ファンド	年率0.143%~0.9625% (税込)	投資対象ファンドにおける運用管理費用です。
実質的な運用管理 費用の概算値	年率1.338425%~1.590325% (税込) の範囲内 *実際の組入状況等により変動します。	
その他の費用・ 手数料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。なお、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。	

※上記手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

お申込みメモ (詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

購入単位	販売会社が定める単位 (詳細は販売会社にご確認ください。)
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額
換金単位	販売会社が定める単位 (詳細は販売会社にご確認ください。)
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込受付中止日	①ニューヨークまたはロンドンの銀行の休業日と同じ日付の日 ②ニューヨーク証券取引所の休業日と同じ日付の日 ③信託財産の運用等または一部解約金の支払に支障をきたす恐れがあるとして委託会社が定める日
信託期間	無期限 (2018年9月19日設定)
決算日	毎年9月18日 (休業日の場合は翌営業日)

2020年3月16日

委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社（ファンドの運用の指図を行う者） auアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3062号 加入協会：一般社団法人 投資信託協会
受託会社（ファンドの財産の保管および管理を行う者） 三菱UFJ信託銀行株式会社 ＜再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社＞
販売会社（募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払い等を行う者） 下記の販売会社一覧をご覧ください。

販売会社一覧

商号（50音順）	登録番号	加入協会			
		①	②	③	④
株式会社SBI証券	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
auカブコム証券株式会社	関東財務局長（金商）第61号	○		○	
大和証券株式会社	関東財務局長（金商）第108号	○	○	○	○
松井証券株式会社	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
三菱UFJ信託銀行株式会社*	関東財務局長（登金）第33号	○		○	
楽天証券株式会社	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

*確定拠出年金のみでのお取扱いとなります。

加入協会

- ①日本証券業協会、②一般社団法人日本投資顧問業協会、③一般社団法人金融先物取引業協会、④一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当資料のご利用にあたっての注意事項等

●当資料は、auアセットマネジメント株式会社がファンドの運用状況等をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。ファンドの取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。●信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。●投資信託は預貯金とは異なります。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料の記載内容は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●分配金は、収益配分方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行なう場合、約定代金に対して最大 1.26500%（但し、最低 2,750 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては約定代金に対して最大 0.99000%の国内取次手数料（税込）に加え、現地情勢等に応じて決定される現地手数料および税金等が必要となります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動（裏付け資産の価格や収益力の変動を含みます）による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行なうにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行なうことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失が生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失が生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された購入時手数料および運用管理費用（信託報酬）等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行なわれていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 / 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会